

10課

悔い改めと赦し

6月6日

安息日午後

5月30日

暗証聖句

自分の罪を公に言い表すなら、神は真実で正しい方ですから、罪を赦し、あらゆる不義からわたしたちを清めてくださいます。(Iヨハネ 1:9、新共同訳)

もし、わたしたちが自分の罪を告白するならば、神は真実で正しいかたであるから、その罪をゆるし、すべての不義からわたしたちをきよめて下さる。(Iヨハネ 1:9、口語訳)

今週の聖句

イザヤ 61:10、ホセア 6章、使徒言行録(使徒行伝) 3:18、19、
出エジプト記 34:1~10、ローマ 6:23、マタイ 22:1~14

今週のテーマ

雲の柱の下、荒れ野で宿営していたイスラエルの人々にとって、約束の地ははるか遠くに思えました。モーセは何日も前に、山の頂を覆っていた濃い闇の中へ登って行きました。自分たちの指導者は、飢えでなくとも、山頂の燃え盛る火に焼き尽くされて死んでしまったに違いないと、人々は考えました。

その中にいた雑多な多くの人々(イスラエル人と、出エジプトの際に共にエジプトを去った人々)は、乳と蜜の流れる土地へすぐにでも向かいたい一心で、落ち着きを失い、いら立ちを募らせていました。ほんの数日前、神に従うという厳粛な契約を神と交わしていたにもかかわらず、その同じ人々が目に見える偶像を求めました。こうして彼らはアロンの天幕の周りに集まり、偶像を造るようになり、身の危険を感じたアロンは、それに同意しました。出エジプト記32~34章には、この悲しい物語がどのように展開していったかが記されています。

この物語は、今週の研究の主題である「悔い改めと赦し」について教えている聖書の物語の一つにすぎません。日ごとの研究をする際に、今週の暗唱聖句を心に留めてください。確かに私たちは罪を犯しますが、十字架と救済計画のおかげで、心から罪を告白し、悔い改める罪人には、赦しを与えられます。

67

※出エジプト記 32~34章はお手元の聖書をお読みください。

それは、とても忙しい1週間でした。彼女は、安息日までにするべきことがたくさんあるとわかっていましたが、急ぎの用事が重要なことを押しつけているようで、気がつけば日が暮れていました。家族で特別な金曜日の夜、一緒に食事をし、礼拝をしました。

しかし、安息日の朝が来て早く目が覚めると、彼女は汚れたトイレが気になってしまい、拭き掃除をしました。続いて彼女は、幼い息子がおねしょをしたのに気づき、シーツをほかの服と一緒に洗濯機に放り込みました。家族の朝食の準備をしていたとき、昼食用のデザートがないことに気づき、急いでバナナブレッドを焼きました。夫が教会に行くためにシャツをアイロンがけする必要があることに気づき、それも済ませ、いくつか服を畳み、ゴミを出しました。

そして、彼女は気づいたのです。「きょうは安息日じゃない。私がほかのどの日よりも愛している日だわ! それなのに、私は、こうしてたくさんの雑用に追われて、安息日の本来の目的——神様に近づくこと——からそれてしまっている」

ほんの一瞬、彼女の心は自分の行動を正当化し始めました。「これはみんな、やらなければならないことだったじゃない」。本当にそうだったのでしょうか。彼女は、自分がマルタのように、「もてなし〔奉仕〕のためにせわしく立ち働いて」〔口語訳「接待のことで忙がしくて」〕(ルカ 10:40)いることに気づいていました。しかし、イエスの言葉が彼女の心に響きました。「あなたは多くのことに思い悩み、心を乱している。しかし、必要なことはただ一つだけである。マリアは良い方を選んだ。それを取り上げてはならない」〔口語訳「あなたは多くのことに心を配って思いわずらっている。しかし、無くてならぬものは多くはない。いや、一つだけである。マリアはその良い方を選んだのだ。そしてそれは、彼女から取り去ってはならないものである」〕(同 10:41, 42)。その「良い方」とは、イエスに対する深い愛から、安息日だけでなく毎日、イエスの足もとに座ることです。今朝、彼女はそれを選びませんでした。

彼女は神を愛していましたが、神が2人の関係をより強めるために、贈り物として安息日を与えてくださったことを忘れがちでした。台所に立っていると、彼女の目から静かに涙がこぼれ落ちました。

このたとえの目的は、安息日に何をすべきか、何をすべきでないかに焦点を合わせることはありません。むしろ、神との関係を弱めたり、壊したりするものに気づくことが、なぜ大切なのかを思い出させることです。私たちの心が罪と分離の痛みを感じ、神に呼びかけるとき、イエスはすぐ近くにいてくださいます(詩編 53:3〔口語訳 詩篇 53:2〕)。イエスは血に染まった御手に、白い衣を持っておられます。そして彼は私たちの悔い改めの涙を見て、汚れた服を脱がせ、清い義の衣で私たちに包み込んでくださいます。イエスの清さは、私たちが告白した罪を完全に、そして完璧に覆います。私たちはイエスの血によって、自分の衣を洗い清めることができるのです(黙 7:14)。

【参考】英語テキストにある文

How do Isaiah 64:6, Zechariah 3:4, and Isaiah 61:10 reveal the important truth of Christ's righteousness to us? Why must we always cling fervently to what God promises us in these verses?

イザヤ 64:5(口語訳 64:6)、ゼカリヤ 3:4、イザヤ 61:10 は、キリストの義という重要な真理を私たちにどのように示しているのでしょうか。なぜ私たちは、これらの聖句において神が約束してくださることに、常に熱心にすがり続けなければならないのでしょうか。

68

ルカ 10:40～42 (新共同訳)

10:40 マルタは、いろいろのもてなしのためせわしく立ち働いていたが、そばに近寄って言った。「主よ、わたしの姉妹はわたしだけにもてなしをさせています。何ともお思いになりませんか。手伝ってくれるようにおっしゃってください。」

10:41 主はお答えになった。「マルタ、マルタ、あなたは多くのことに思い悩み、心を乱している。」

10:42 しかし、必要なことはただ一つだけである。マリアは良い方を選んだ。それを取り上げてはならない。」

詩 53:3 (新共同訳)

53:3 神は天から人の子らを見渡し、探される/目覚めた人、神を求める人はいないか、と。

黙 7:14 (新共同訳)

7:14 そこで、わたしが、「わたしの主よ、それはあなたの方がご存じです」と答えると、長老はまた、わたしに言った。「彼らは大きな苦難を通過して来た者で、その衣を小羊の血で洗って白くしたのである。」

イザ 64:5 (新共同訳)

64:5 わたしたちは皆、汚れた者となり/正しい業もすべて汚れた着物のようになった。わたしたちは皆、枯れ葉のようになり/わたしたちの悪は風のように/わたしたちを運び去った。

ゼカ 3:4 (新共同訳)

3:4 御使いは自分に仕えている者たちに向かって言った。「彼の汚れた衣を脱がせてやりなさい。」また、御使いはヨシュア

ルカ 10:40～42 (口語訳)

10:40 ところが、マルタは接待のことで忙がしくて心をとirimだし、イエスのところにきて言った、「主よ、妹がわたしだけに接待をさせているのを、なんともお思いになりませんか。わたしの手伝いをするように妹におっしゃってください。」

10:41 主は答えて言われた、「マルタよ、マルタよ、あなたは多くのことに心を配って思わづらっている。」

10:42 しかし、無くてならぬものは多くはない。いや、一つだけである。マリアはその良い方を選んだのだ。そしてそれは、彼女から取り去ってはならないものである」。

詩 53:2 (口語訳)

53:2 神は天から人の子を見おろして、賢い者、神を尋ね求める者があるかないかを見られた。

黙 7:14 (口語訳)

7:14 わたしは彼に答えた、「わたしの主よ、それはあなたのご存じです」。すると、彼はわたしに言った、「彼らは大きな患難をとおってきた人たちであって、その衣を小羊の血で洗い、それを白くしたのである。」

イザ 64:6 (口語訳)

64:6 われわれはみな汚れた人のようになり、われわれの正しい行いは、ことごとく汚れた衣のようである。われわれはみな木の葉のように枯れ、われわれの不義は風のようにわれわれを吹き去る。

ゼカ 3:4 (口語訳)

3:4 み使は自分の前に立っている者どもに言った、「彼の汚れた衣を脱がせなさい」。またヨシュアに向かって言った、「見

に言った。「わたしはお前の罪を取り去った。晴れ着を着せてもらいなさい。」

イザ 61:10 (新共同訳)

61:10 わたしは主によって喜び楽しみ/
わたしの魂はわたしの神にあつて喜び躍る。主は救いの衣をわたしに着せ/恵みの晴れ着をまとうせてくださる。花婿のように輝きの冠をかぶらせ/花嫁のように宝石で飾ってくださる。

よ、わたしはあなたの罪を取り除いた。あなたに祭服を着せよう」。

イザ 61:10 (口語訳)

61:10 わたしは主を大いに喜び、わが魂はわが神を楽しむ。主がわたしに救いの衣を着せ、義の上衣をまとうせて、花婿が冠をいただき、花嫁が宝玉をもって飾るようにされたからである。

月曜日 6月1日 聖霊の促し

彼は、妻との距離について考えたとき、自分が間違っていたことに気づきました。彼は、不親切で厳しい態度を取り、後悔するようなことをしてしまったのです。しかし、次に彼の頭に浮かんだのは、「彼女だって少しくらいそうされても仕方なかったんじゃないか」という思いでした。

このような思考回路に覚えはありませんか。後悔の念が自分の考えや行動を正当化する気持ちに変わるの、よくあることです。間違っただけをしてしまったとき、「ごめんなさい」と言うのは、必ずしも容易なことではありません。しかし、どんな関係でも修復したり、強めたりするためには不可欠なことです。

私たちと神の関係にも、同じことが言えます。聖霊はしばしば、私たちが犯した罪について思い起こすよう、私たちの心に働きかけられます。私たちの心は、こうした促しによって動かされますが、なぜ自分がそのように行動したのかを正当化しようとして、その静かで小さな声を押しつけてしまいがちです。聖霊の役割の一つは、「罪について……世の誤りを明らかにする」〔口語訳「罪……について、世の人の目を開く」〕(ヨハ 16:8) ことです。これは神からのなんとすばらしい賜物でしょう(ルカ 11:13)。神との歩みに生じうる距離を埋めるためには、このような罪の自覚が私たちにはどれほど必要なことでしょうか！

問1 ホセア 6 章を読んでください。悔い改めを求める呼びかけの中で、神はご自身について述べておられますが、特にあなたはどんなことに気づきますか。

私たちを再びぶどうの木に接ぎ木する過程での聖霊の役割について考えてみましょう(ヨハ 15:4)。「われわれは、自分の悪い行為によっておもしろくない結果が自分自身に降りかかるために悲しむことがよくある。しかし、これは悔い改めではない。罪について本当に悲しむことは、聖霊の働きの結果である。御霊は、救い主を軽んじ、悲しませた心の忘恩を示し、われわれを砕けた心もって十字架のもとに行かせる。われわれが罪を犯すたびに、イエスは新たな傷を受けられる。……われわれは、イエスに苦悩を与えた罪について悲しむ。このように悲しむことによって、われわれは、罪を放棄するようになるのである」(『希望への光』 821 ページ、『各時代の希望』 第 31 章)。

真実は、私たちが選び、大切にしている罪が私たちと神との間に立ちはだかつている限り、私たちは神との関係を成長させることができないということです。私たちは神の栄光に達していません。聖霊が罪を思い起こさせてくださるとき、罪を悔い改めることはできますし、そうすべきです(エフェ[エペ]4:30)。

【参考】英語テキストにある文

When did you last hear a rebuke or a call to repentance? How did you respond? Spend some time right now in prayer, asking God to soften your heart and open your ears to His voice in His Word this week.

あなたが最後に叱責や悔い改めの呼びかけを聞いたのはいつですか。そのとき、どのように応じましたか。今すぐ少し時間を取って祈り、今週、神があなたの心を和らげ、御言葉を通して語られる御声に耳を傾けられるよう、神に願い求めましょう。

69

ヨハ 16:8 (新共同訳)

16:8 その方が来れば、罪について、義について、また、裁きについて、世の誤りを明らかにする。

ルカ 11:13 (新共同訳)

11:13 このように、あなたがたは悪い者でありながらも、自分の子供には良い物を与えることを知っている。まして天の父は求める者に聖霊を与えてくださる。」

ホセ 6 章 (新共同訳)

6:1 「さあ、我々は主のもとに帰ろう。主は我々を引き裂かれたが、いやし/我々を打たれたが、傷を包んでくださる。

6:2 二日の後、主は我々を生かし/三日目に、立ち上がらせてくださる。我々は御前に生きる。

6:3 我々は主を知ろう。主を知ることを追い求めよう。主は曙の光のように必ず現れ/降り注ぐ雨のように/大地を潤す春雨のように/我々を訪れてくださる。」

6:4 エフライムよ/わたしはお前をどうしたらよいのか。ユダよ、お前をどうしたらよいのか。お前たちの愛は朝の霧/すぐに消えうせる露のようだ。

6:5 それゆえ、わたしは彼らを/預言者たちによって切り倒し/わたしの口の言葉をもって滅ぼす。わたしの行く裁きは光のように現れる。

ヨハ 16:8 (口語訳)

16:8 それがきたら、罪と義とさばきとについて、世の人の目を開くであろう。

ルカ 11:13 (口語訳)

11:13 このように、あなたがたは悪い者であっても、自分の子供には、良い贈り物をするのを知っているとすれば、天の父はなおさら、求めて来る者に聖霊を下さないことがあるのか。」

ホセ 6 章 (口語訳)

6:1 さあ、わたしたちは主に帰ろう。主はわたしたちをかき裂かれたが、またいやし、わたしたちを打たれたが、また包んでくださるからだ。

6:2 主は、ふつかの後、わたしたちを生かし、三日目にわたしたちを立たせられる。わたしたちはみ前で生きる。

6:3 わたしたちは主を知ろう、せつに主を知ることを求めよう。主はあしたの光のように必ず現れいで、冬の雨のように、わたしたちに臨み、春雨のように地に潤される。」

6:4 エフライムよ、わたしはあなたに何をしようか。ユダよ、わたしはあなたに何をしようか。あなたがたの愛はあしたの雲のごとく、また、たちまち消える露のようなものである。

6:5 それゆえ、わたしは預言者たちによって彼らを切り倒し、わが口の言葉をもって彼らを殺した。わがさばきは現れ出る光のようだ。

6:6 わたしが喜ぶのは/愛であっていけにえではなく/神を知ることであって/焼き尽くす献げ物ではない。

6:7 彼らはアダムで契約を破り/そこでわたしを裏切った。

6:8 ギレアドは悪を行う者どもの住みか/流血の罪を犯した者の足跡がしるされている。

6:9 祭司の一同は待ち伏せる強盗のように/シケムへの道で人を殺す。なんとという悪事を彼らは行うことが。

6:10 イスラエルの家に、恐るべきことをわたしは見た。そこでエフライムは姦淫をし/イスラエルは自分を汚した。

6:11 ユダよ、お前にも/刈り取られる時が定められている。わたしが民を回復させようとし

ヨハ 15:4 (新共同訳)

15:4 わたしにつながっていなさい。わたしもあなたがたにつながっている。ぶどうの枝が、木につながってなければ、自分では実を結ぶことができないように、あなたがたも、わたしにつながってなければ、実を結ぶことができない。

エフェ 4:30 (新共同訳)

4:30 神の聖霊を悲しませてはいけません。あなたがたは、聖霊により、贖いの日に対して保証されているのです。

6:6 わたしはいつくしみを喜び、犠牲を喜ばない。燔祭よりもむしろ神を知ることを喜ぶ。

6:7 ところが彼らはアダムで契約を破り、かしこでわたしにそむいた。

6:8 ギレアドは悪を行う者の町で、血の足跡で満たされている。

6:9 盗賊が人を待ち伏せするように、祭司たちは党を組み、シケムへ行く道で人を殺す。このように彼らは悪しき事を行う。

6:10 わたしはイスラエルの家に恐るべき事を見た。かしこでエフライムは淫行をなし、イスラエルは汚された。

6:11 ユダよ、あなたのためにも刈入れが定められている。わたしがわが民の繁栄を回復するとき、

ヨハ 15:4 (口語訳)

15:4 わたしにつながっていなさい。そうすれば、わたしはあなたがたとつながってしよう。枝がぶどうの木につながってなければ、自分だけでは実を結ぶことができないように、あなたがたもわたしにつながってなければ実を結ぶことができない。

エペ 4:30 (口語訳)

4:30 神の聖霊を悲しませてはいけない。あなたがたは、あがないの日のために、聖霊の証印を受けたのである。

火曜日 6月2日 真の悔い改め

世俗の世界は、自立、放縦、自己顕示といったメッセージを私たちに浴びせかけます。しかし、それらは神の国の原則とは正反対なものです。興味深いことに、聖書に記録されているバプテスマのヨハネとイエスの最初の言葉は、似ています。ヨハネは、「悔い改めよ。天の国は近づいた」〔口語訳「悔い改めよ、天国は近づいた」〕(マタ 3:1、2)と言い、イエスは、「時は満ち、神の国は近づいた。悔い改めて福音を信じなさい」〔口語訳「時は満ちた、神の国は近づいた。悔い改めて福音を信ぜよ」〕(マコ1:14、15、ルカ24:46、47も参照)と言われました。イエスもヨハネも、天の国(天国)が近づいているから悔い改めなさいと、聴衆に呼びかけたのです。この同じメッセージは、現代の私たちにも同様に当てはまるのではないのでしょうか。

問2 使徒言行録(使徒行伝) 3:18~20 を読んでください。霊的成長の過程において、悔い改めはなぜ重要なのでしょうか。「慰めの時」とは、何ですか。

神の優しさと憐れみは、私たちが悔い改めへと導きます(ロマ2:4)。悔い改めには、二つの段階があります。(1)自分の罪に対する心からの痛みと悲しみ。(2)罪を捨てるという誠実な決意。聖書では、悔い改めはほとんどの場合、赦しと結びつけられています。私たちが心から悔い改めれば、神は赦してくださいます。実に単純なことです(1ヨハ1:9、黙3:19)。「ある人たちは、遅いと考えているようですが、主は約束の実現を遅らせておられるのではありません。そうではなく、一人も滅びないで皆が悔い改めるようにと、あなたがたのために忍耐しておられるのです」【口語訳「ある人々がおそいと思っているように、主は約束の実行をおそくしておられるのではない。ただ、ひとりも滅びることがなく、すべての者が悔改めに至ることを望み、あなたがたに対してながく忍耐しておられるのである」】(Ⅱペト【ペテ】3:9)。私たちが個人的に再臨に向けて魂を備える中、神は私たちに、神との関係を正す時間を与えてくださっています。

イエスが苦しみを受けて死に、復活されたのは、私たちが悔い改めるとき、神の恵みが私たちの人生に奇跡を起こすためでした。今の私たちのままで大丈夫だと言うこの世とは対照的に、神は、私たちが悔い改めと信仰をもって神に立ち帰り(使徒20:21)、神の御手に完全に身を委ねるよう求めておられます。そうすれば神は、私たちの品性の手入れをし、神の御かたちへと美しく形づくってください、私たちは神を証しする者とされるのです(ヨハ15:2、8)。こうして私たちは成長し、悔い改めにふさわしい実を結びます(マタ3:8)。

改革を伴わない悔い改めは、真正なものではない。キリストの義は、告白されてもいなければ、捨てられてもいない罪を覆う外衣ではない。それは品性を一変し、行為を規制する生活原則である」(『希望への光』961ページ、『各時代の希望』第61章)。

【参考】英語テキストにある文

Repentance leads to life (Acts 11:18) and is a vital part of growing in a relationship with God. In the process of surrender, repentance, and allowing God to prune you, what step is most challenging for you?

悔い改めは命へと導く(使徒11:18)ものであり、神との関係を成長させる上で欠かせない要素です。自らを神に委ね、悔い改め、神に自分を整えていただくという過程において、あなたにとって最も難しいと感じることは何ですか。

マタ3:1、2 (新共同訳)

3:1 そのころ、洗礼者ヨハネが現れて、ユダヤの荒野で宣べ伝え、
3:2 「悔い改めよ。天の国は近づいた」と言った。

マコ1:14、15 (新共同訳)

1:14 ヨハネが捕えられた後、イエスはガリラヤへ行き、神の福音を宣べ伝えて、

1:15 「時は満ち、神の国は近づいた。悔い改めて福音を信じなさい」と言われた。

マタ3:1、2 (口語訳)

3:1 そのころ、バプテスマのヨハネが現れ、ユダヤの荒野で教を宣べて言った、
3:2 「悔い改めよ、天国は近づいた」。

マコ1:14、15 (口語訳)

1:14 ヨハネが捕えられた後、イエスはガリラヤに行き、神の福音を宣べ伝えて言われた、

1:15 「時は満ちた、神の国は近づいた。悔い改めて福音を信ぜよ」。

ルカ 24:46、47 (新共同訳)

24:46 言われた。「次のように書いてある。『メシアは苦しみを受け、三日目に死者の中から復活する。

24:47 また、罪の赦しを得させる悔い改めが、その名によってあらゆる国の人々に宣べ伝えられる』と。エルサレムから始めて、

使徒 3:18～20 (新共同訳)

3:18 しかし、神はすべての預言者の口を通して予告しておられたメシアの苦しみを、このようにして実現なされたのです。

3:19 だから、自分の罪が消し去られるように、悔い改めて立ち帰りなさい。

3:20 こうして、主のもとから慰めの時が訪れ、主はあなたがたのために前もって決めておられた、メシアであるイエスを遣わしてくださいのです。

ロマ 2:4 (新共同訳)

2:4 あるいは、神の憐れみがあなたを悔い改めに導くことも知らないで、その豊かな慈愛と寛容と忍耐とを軽んじるのですか。

Iヨハ 1:9 (新共同訳)

1:9 自分の罪を公に言い表すなら、神は真実で正しい方ですから、罪を赦し、あらゆる不義からわたしたちを清めてくださいます。

黙 3:19 (新共同訳)

3:19 わたしは愛する者を皆、叱ったり、鍛えたりする。だから、熱心に努めよ。悔い改めよ。

IIペト 3:9 (新共同訳)

3:9 ある人たちは、遅いと考えているようですが、主は約束の実現を遅らせておられるわけではありません。そうではなく、一人も滅びないで皆が悔い改めるようにと、あなたがたのために忍耐しておられるのです。

使徒 20:21 (新共同訳)

20:21 神に対する悔い改めと、わたしたちの主イエスに対する信仰とを、ユダヤ人にもギリシア人にも力強く証してきたのです。

ヨハ 15:2、8 (新共同訳)

15:2 わたしにつながっているが、実を

ルカ 24:46、47 (口語訳)

24:46 言われた、「こう、しるしてある。キリストは苦しみを受けて、三日目に死人の中からよみがえる。

24:47 そして、その名によって罪のゆるしを得させる悔改めが、エルサレムからはじまって、もろもろの国民に宣べ伝えられる。

使徒 3:18～20 (口語訳)

3:18 神はあらゆる預言者の口をとおして、キリストの受難を予告しておられたが、それをこのように成就なされたのである。

3:19 だから、自分の罪をぬぐい去っていただくために、悔い改めて本心に立ちかえりなさい。

3:20 それは、主のみ前から慰めの時がきて、あなたがたのためにあらかじめ定めであったキリストなるイエスを、神がつかわして下さるためである。

ロマ 2:4 (口語訳)

2:4 それとも、神の慈愛があなたを悔改めに導くことも知らないで、その慈愛と忍耐と寛容との富を軽んじるのか。

Iヨハ 1:9 (口語訳)

1:9 もし、わたしたちが自分の罪を告白するならば、神は真実で正しいかたであるから、その罪をゆるし、すべての不義からわたしたちをきよめて下さる。

黙 3:19 (口語訳)

3:19 すべてわたしの愛している者を、わたしはしかったり、懲らしめたりする。だから、熱心になって悔い改めなさい。

IIペテ 3:9 (口語訳)

3:9 ある人々がおそいと思っているように、主は約束の実行をおそくしておられるのではない。ただ、ひとりも滅びることがなく、すべての者が悔改めに至ることを望み、あなたがたに対してながく忍耐しておられるのである。

使徒 20:21 (口語訳)

20:21 ユダヤ人にもギリシア人にも、神に対する悔改めと、わたしたちの主イエスに対する信仰とを、強く勧めてきたのである。

ヨハ 15:2、8 (口語訳)

15:2 わたしにつながっている枝で実を結

結ばない枝はみな、父が取り除かれる。しかし、実を結ぶものはみな、いよいよ豊かに実を結ぶように手入れをなさる。

15:8 父がわたしを愛されたように、わたしもあなたがたを愛してきた。わたしの愛にとどまりなさい。

マタ 3:8 (新共同訳)
3:8 悔い改めにふさわしい実を結べ。

使徒 11:18 (新共同訳)
11:18 この言葉を聞いて人々は静まり、「それでは、神は異邦人をも悔い改めさせ、命を与えてくださったのだ」と言って、神を賛美した。

ばないものは、父がすべてこれをとりぞき、実を結ぶものは、もっと豊かに実らせるために、手入れしてこれをきれいになさるのである。

15:8 あなたがたが実を豊かに結び、そしてわたしの弟子となるならば、それによって、わたしの父は栄光をお受けになるであろう。

マタ 3:8 (口語訳)
3:8 だから、悔改めにふさわしい実を結べ。

使徒 11:18 (口語訳)
11:18 人々はこれを聞いて黙ってしまった。それから神をさんびして、「それでは神は、異邦人にも命にいたる悔改めをお与えになったのだ」と言った。

水曜日 6月3日 十分な恵み

罪の重さを感じ、聖霊に導かれて十字架の下に行くとき、私たちは、「主は憐れみ深く、恵みに富み/忍耐強く、慈しみは大きい」〔口語訳「主はあわれみに富み、めぐみふかく、怒ること遅く、いつくしみ豊かでいらせられる」〕(詩編〔詩篇〕103:8)ということを知っているのですから、神の赦しを求めるべきです。この詩編(詩篇)の言葉は、神が自ら選んだ民によって悲しい思いをさせられたあとに、語られたものでした(出34:6)。

問3 出エジプト記 34:1~10 を読んでください。ここにはどんな重要な真理がありますか。

主が憐れみ深く、恵みに富み、怒ること遅く、慈しみに満ちておられるという事実は、イエスが十字架で死なれた理由そのものです。イエスの死は、神と私たちとの関係を回復するためでした。

私たちが進んで自分の罪を認め、告白するとき、つまり、「ああ、主よ、また来ました……。『罪人のわたしを憐れんでください』〔口語訳「罪人のわたしをおゆるしてください」〕(ルカ 18:13)」と言うとき、(私たちが呼びかける前から、すでに聖霊と共に私たちの内で、私たちのために働いてくださっている)イエスは、私たちの重荷を見て、それを取り去ってくださいます。私たちの重荷は、カルバリーで取り除かれるのです。私たちがイエスのもとへ行くとき、彼は確かにすぐ近くにおられますが、それ以前から、良い羊飼いとしてみなを探し求め、戸口に立ってたたいています(黙 3:20)。十字架から離れて、遠くから神を眺めるのではなく、イエスのもとに走り寄り、私たちの罪や重荷を彼の義と交換しましょう(ゼカ 3:4)。

問4 次の聖句をゆっくり読み、あなたに対する神の恵みについて、これらの聖句が語りかけてくることを自分の言葉で書き記してください。

- 「罪が支払う報酬は死です。しかし、神の賜物は、わたしたちの主キリスト・イエスによる永遠の命なのです」【口語訳「罪の支払う報酬は死である。しかし神の賜物は、わたしたちの主キリスト・イエスにおける永遠のいのちである」】(ロマ 6:23)。
- 「しかし、罪が増したところには、恵みはなおいっそう満ちあふれました。こうして、罪が死によって支配していたように、恵みも義によって支配しつつ、わたしたちの主イエス・キリストを通して永遠の命に導くのです」【口語訳「しかし、罪の増し加わったところには、恵みもますます満ちあふれた。それは、罪が死によって支配するに至ったように、恵みもまた義によって支配し、わたしたちの主イエス・キリストにより、永遠のいのちを得させるためである」】(ロマ 5:20、21)。
- 「しかし、わたしたちがまだ罪人であったとき、キリストがわたしたちのために死んでくださったことにより、神はわたしたちに対する愛を示されました」【口語訳「しかし、まだ罪人であった時、わたしたちのためにキリストが死んで下さったことによって、神はわたしたちに対する愛を示されたのである」】(ロマ 5:8)。

71

詩 103:8 (新共同訳)

103:8 主は憐れみ深く、恵みに富み/忍耐強く、慈しみは大きい。

出 34:1~10 (新共同訳)

34:1 主はモーセに言われた。「前と同じ石の板を二枚切りなさい。わたしは、あなたが砕いた、前の板に書かれていた言葉を、その板に記そう。

34:2 明日の朝までにそれを用意し、朝、シナイ山に登り、山の頂でわたしの前に立ちなさい。

34:3 だれもあなたと一緒に登ってはならない。山のどこにも人の姿があってはならず、山のふもとで羊や牛の放牧もしてはならない。」

34:4 モーセは前と同じ石の板を二枚切り、朝早く起きて、主が命じられたとおりシナイ山に登った。手には二枚の石の板を携えていた。

34:5 主は雲のうちにあって降り、モーセと共にそこに立ち、主の御名を宣言された。

34:6 主は彼の前を通り過ぎて宣言された。「主、主、憐れみ深く恵みに富む神、忍耐強く、慈しみとまことに満ち、

34:7 幾千代にも及ぶ慈しみを守り、罪と背きと過ちを赦す。しかし罰すべき者を

詩 103:8 (口語訳)

103:8 主はあわれみに富み、めぐみふかく、怒ること遅く、いつくしみ豊かでいらせられる。

出 34:1~10 (口語訳)

34:1 主はモーセに言われた、「あなたは前のような石の板二枚を、切って造りなさい。わたしはあなたが砕いた初めの板にあった言葉を、その板に書くであろう。

34:2 あなたは朝までに備えをし、朝のうちにシナイ山に登って、山の頂でわたしの前に立ちなさい。

34:3 だれもあなたと共に登ってはならない。また、だれも山の中に入れてはならない。また山の前で羊や牛を飼ってはならない。」

34:4 そこでモーセは前のような石の板二枚を、切って造り、朝早く起きて、主が彼に命じられたようにシナイ山に登った。彼はその手に石の板二枚をとった。

34:5 ときに主は雲のうちにあって下り、彼と共にそこに立って主の名を宣べられた。

34:6 主は彼の前を過ぎて宣べられた。「主、主、あわれみあり、恵みあり、怒ることおそく、いつくしみと、まこととの豊かなる神、

34:7 いつくしみを千代までも施し、悪と、とがと、罪とをゆるす者、しかし、罰す

罰せずにはおかず、父祖の罪を、子、孫に三代、四代までも問う者。』

34:8 モーセは急いで地にひざまずき、ひれ伏して、

34:9 言った。「主よ、もし御好意を示してくださいますならば、主よ、わたしたちの中であって進んでください。確かにかたくなな民ですが、わたしたちの罪と過ちを赦し、わたしたちをあなたの嗣業として受け入れてください。』

34:10 主は言われた。「見よ、わたしは契約を結ぶ。わたしはあなたの民すべての前で驚くべき業を行う。それは全地のいかなる民にもいまだかつてなされたことのない業である。あなたと共にいるこの民は皆、主の業を見るであろう。わたしがあなたと共にあつて行うことは恐るべきものである。」

ルカ 18:13 (新共同訳)

18:13 ところが、徴税人は遠くに立って、目を天に上げようともせず、胸を打ちながら言った。『神様、罪人のわたしを憐れんでください。』

黙 3:20 (新共同訳)

3:20 見よ、わたしは戸口に立って、たたいている。だれかわたしの声を聞いて戸を開ける者があれば、わたしは中に入ってその者と共に食事をし、彼もまた、わたしと共に食事をするであろう。

ゼカ 3:4 (新共同訳)

3:4 御使いは自分に仕えている者たちに向かって言った。「彼の汚れた衣を脱がせてやりなさい。」また、御使いはヨシュアに言った。「わたしはお前の罪を取り去った。晴れ着を着せてもらいなさい。」

ロマ 6:23 (新共同訳)

6:23 罪が支払う報酬は死です。しかし、神の賜物は、わたしたちの主キリスト・イエスによる永遠の命なのです。

ロマ 5:20、21 (新共同訳)

5:20 律法が入り込んで来たのは、罪が増し加わるためでありました。しかし、罪が増したところには、恵みはなおいっそう満ちあふれました。21 こうして、罪が死によって支配していたように、恵みもまた義によって支配しつつ、わたしたちの主

べき者をば決してゆるさず、父の罪を子に報い、子の子に報いて、三、四代におよぼす者。』

34:8 モーセは急ぎ地に伏して拝し、

34:9 そして言った、「ああ主よ、わたしがもし、あなたの前に恵みを得ますならば、かたくなな民ですけれども、どうか主がわたしたちのうちにあって一緒に行ってください。そしてわたしたちの悪と罪とをゆるし、わたしたちをあなたのものとしてください。』

34:10 主は言われた、「見よ、わたしは契約を結ぶ。わたしは地のいずこにも、いかなる民のうちにも、いまだ行われたことのない不思議を、あなたのすべての民の前に行くであろう。あなたが共に住む民はみな、主のわざを見るであろう。わたしがあなたのためになそうとすることは、恐るべきものだからである。」

ルカ 18:13 (口語訳)

18:13 ところが、取税人は遠く離れて立ち、目を天にむけようともしないで、胸を打ちながら言った、『神様、罪人のわたしをおゆるしください。』と。

黙 3:20 (口語訳)

3:20 見よ、わたしは戸の外に立って、たたいている。だれでもわたしの声を聞いて戸をあけるなら、わたしはその中にはいって彼と食を共にし、彼もまたわたしと食を共にするであろう。

ゼカ 3:4 (口語訳)

3:4 み使は自分の前に立っている者どもに言った、「彼の汚れた衣を脱がせなさい」。またヨシュアに向かって言った、「見よ、わたしはあなたの罪を取り除いた。あなたに祭服を着せよう」。

ロマ 6:23 (口語訳)

6:23 罪の支払う報酬は死である。しかし神の賜物は、わたしたちの主キリスト・イエスにおける永遠のいのちである。

ロマ 5:20、21 (口語訳)

5:20 律法がはいり込んで来たのは、罪過の増し加わるためである。しかし、罪の増し加わったところには、恵みもますます満ちあふれた。21 それは、罪が死によって支配するに至ったように、恵みもまた義によって支配し、わたしたちの主イ

イエス・キリストを通して永遠の命に導くのです。

ロマ 5:8 (新共同訳)

5:8 しかし、わたしたちがまだ罪人であったとき、キリストがわたしたちのために死んでくださったことにより、神はわたしたちに対する愛を示されました。

イエス・キリストにより、永遠のいのちを得させるためである。

ロマ 5:8 (口語訳)

5:8 しかし、まだ罪人であった時、わたしたちのためにキリストが死んで下さったことによって、神はわたしたちに対する愛を示されたのである。

木曜日 6月4日 最も高価な衣服

この世の基準によれば、高価な服を着ている人は金持ちと見なされることがよくあります。「自分が何者であるかを表現するために、この服を着ています」と言う人もいます。しかし天国では、関係以外のすべては消え去ってしまいます(マタ6:19~21)。私たち個人のアイデンティティー(本当の自分)は、イエスとその完全な義の衣に包まれる必要があります。

問5 このことを説明するため、イエスが語られたマタイ22:1~14のたとえを読んでください。このたとえの中に、どんなメッセージを見いだすことができますか。

イエスは礼服を着ていない男を「友」と呼ばれています。男は返事をしていませんが、2人の間には何らかの関係があったに違いありません。男は礼服のことを知っていながら、それを着ないことを選んだのでしょう。イエスの品性は完全に汚れがなく、イエスはそれを私たちに与えてくれます。花嫁が、「輝く清い麻の布を着せられ」[口語訳「**光り輝く、汚れない麻布の衣を着ることを許され**」](黙19:8)、「しみやしわやそのたぐいのものは何一つない」[口語訳「**しみも、しわも、そのたぐいのものがいっさいない**」](エフェ[エペ]5:27)者とされるためです。

輝く清い麻の布[口語訳「**光り輝く、汚れない麻布の衣**」]、「主を自分の救い主として受け入れるすべての者に、信仰を通して与えられるのは、キリストの義であり、キリストご自身の汚れないご品性」(『希望への光』1308ページ、『キリストの実物教訓』第24章)です。

罪を犯す前、アダムとエバは、柔らかな光の白い衣を着ていました。罪を犯したあと、彼らは自分たちが裸であることに気づくと(創3:7)、いちじくの葉で衣を作りました。そこで神は、いちじくの葉の衣を動物の皮で作った衣と交換されました。彼らの衣は、犠牲によって作られました。同様に、私たちはイエスの義の衣を受け入れることによって、主の犠牲を受け入れるのです。

「彼らは裸となった自分の身を恥じて、いちじくの葉をぬい合わせて覆いを作り、それを天の衣の代わりにしようとした。……しかし、これはできることではない。人は、失われた純潔という衣の代わりになるものを工夫することができない。いちじくの葉で作った衣やこの世の服装がどれほど良いものであっても、それを着てキリストと天使と共に小羊の婚宴に列席することはできないのである。

キリストご自身の備えてくださった衣だけが、わたしたちを神の臨在の前に立たせてくれるのである。キリストはこの覆い、すなわち主ご自身の義の衣を、悔い改めて信じる1人ひとりの魂に着せてくださる】(『希望への光』1308 ページ、『キリストの実物教訓』第24章)。

【参考】英語テキストにある文

Reflect: We should daily choose to be clothed with Jesus' robe of righteousness. What does this really mean, and how do we do this?

考えてみましょう: 私たちは毎日、イエスの義の衣を身にまとうことを選ぶべきです。これは実際にはどういう意味なのでしょう。また、どうやってこれを実践すればよいのでしょうか。

72

マタ 6:19~21 (新共同訳)

6:19 「あなたがたは地上に富を積んではならない。そこでは、虫が食ったり、さび付いたりするし、また、盗人が忍び込んで盗み出したりする。

6:20 富は、天に積みなさい。そこでは、虫が食うことも、さび付くこともなく、また、盗人が忍び込むことも盗み出すこともない。

6:21 あなたの富のあるところに、あなたの心もあるのだ。」

マタ 22:1~14 (新共同訳)

22:1 イエスは、また、たとえを用いて語られた。

22:2 「天の国は、ある王が王子のために婚宴を催したのに似ている。

22:3 王は家来たちを送り、婚宴に招いておいた人々を呼ばせたが、来ようとしなかった。

22:4 そこでまた、次のように言って、別の家来たちを使いに出した。『招いておいた人々にこう言いなさい。「食事の用意が整いました。牛や肥えた家畜を屠って、すっかり用意ができています。さあ、婚宴においでください。」』

22:5 しかし、人々はそれを無視し、一人は畑に、一人は商売に出かけ、

22:6 また、他の人々は王の家来たちを捕まえて乱暴し、殺してしまった。

22:7 そこで、王は怒り、軍隊を送って、この人殺しどもを滅ぼし、その町を焼き払った。

マタ 6:19~21 (口語訳)

6:19 あなたがたは自分のために、虫が食い、さびがつき、また、盗人らが押し入って盗み出すような地上に、宝をたくわえてはならない。

6:20 むしろ自分のため、虫も食わず、さびもつかず、また、盗人らが押し入って盗み出すこともない天に、宝をたくわえなさい。

6:21 あなたの宝のある所には、心もあるからである。

マタ 22:1~14 (口語訳)

22:1 イエスはまた、譬で彼らに語って言われた、

22:2 「天国は、ひとりの王がその王子のために、婚宴を催すようなものである。

22:3 王はその僕たちをつかわして、この婚宴に招かれていた人々を呼ばせたが、その人たちはこようとはしなかった。

22:4 そこでまた、ほかの僕たちをつかわして言った、『招かれた人々に言いなさい。食事の用意ができました。牛も肥えた獣もほふられて、すべての用意ができました。さあ、婚宴においでください。』

22:5 しかし、彼らは知らぬ顔をして、ひとり自分の畑に、ひとり自分の商売に出て行き、

22:6 またほかの人々は、この僕たちをつかまえて侮辱を加えた上、殺してしまった。

22:7 そこで王は立腹し、軍隊を送ってそれらの人殺しどもを滅ぼし、その町を焼き払った。

22:8 そして、家来たちに言った。『婚宴の用意はできているが、招いておいた人々は、ふさわしくなかった。

22:9 だから、町の大通りに出て、見かけた者はだれでも婚宴に連れて来なさい。』

22:10 そこで、家来たちは通りに出て行き、見かけた人は善人も悪人も皆集めて来たので、婚宴は客でいっぱいになった。

22:11 王が客を見ようとして入ると、婚礼の礼服を着ていない者が一人いた。

22:12 王は、『友よ、どうして礼服を着ないでここに入って来たのか』と言った。この者が黙っていると、

22:13 王は側近の者たちに言った。『この男の手足を縛って、外の暗闇にほうり出せ。そこで泣きわめいて歯ぎしりするだろう。』

22:14 招かれる人は多いが、選ばれる人は少ない。』

黙 19:8 (新共同訳)

19:8 花嫁は、輝く清い麻の衣を着せられた。この麻の衣とは、聖なる者たちの正しい行いである。』

エフエ 5:27 (新共同訳)

5:27 しみやしわやそのたぐいのは何一つない、聖なる、汚れのない、栄光に輝く教会を御自分の前に立たせるためでした。

創 3:7 (新共同訳)

3:7 二人の目は開け、自分たちが裸であることを知り、二人はいちじくの葉をつづり合わせ、腰を覆うものとした。

22:8 それから僕たちに言った、『婚宴の用意はできているが、招かれていたのは、ふさわしくない人々であった。

22:9 だから、町の大通りに出て行って、出会った人はだれでも婚宴に連れてきなさい。』

22:10 そこで、僕たちは道に出て行って、出会う人は、悪人でも善人でもみな集めてきたので、婚宴の席は客でいっぱいになった。

22:11 王は客を迎えようとしてはいつてきたが、そこに礼服をつけていないひとりの人を見て、

22:12 彼に言った、『友よ、どうしてあなたは礼服をつけなくて、ここにはいつてきたのですか』。しかし、彼は黙っていた。

22:13 そこで、王はそばの者たちに言った、『この者の手足をしばって、外の暗やみにほうり出せ。そこで泣き叫んだり、歯がみをしたりするであろう。』

22:14 招かれる者は多いが、選ばれる者は少ない。』

黙 19:8 (口語訳)

19:8 彼女は、光り輝く、汚れのない麻布の衣を着ることを許された。この麻布の衣は、聖徒たちの正しい行いである。』

エペ 5:27 (口語訳)

5:27 また、しみも、しわも、そのたぐいのものがいっさいなく、清くて傷のない栄光の姿の教会を、ご自分に迎えるためである。

創 3:7 (口語訳)

3:7 すると、ふたりの目が開け、自分たちの裸であることがわかったので、いちじくの葉をつづり合わせて、腰に巻いた。

金曜日

6月5日

さらなる研究

聖書は、私たちの霊的な状態を描く際に、しばしば農業の比喻を用います。ホセア10:12は、今週、私たちが考えたことをよくあらわしています。

「恵みの業をもたらす種を蒔け/愛の実りを刈り入れよ。新しい土地を耕せ。主を求める時が来た。ついに主が訪れて/恵みの雨を注いでくださるように」**[口語訳「あなたがたは自分のために正義をまき、いつくしみの実を刈り取り、あなたがたの新田を耕せ。今は主を求むべき時である。主は来て救いを雨のように、あなたがたに降りそそがれる」]**

私たちは、種をまき、刈り取り、固い土を耕し、神が私たちに近づいてくださるよう求めます。私たちの心の土は、雨(聖霊)が降るために準備され、整えられていなければなりません。神は私たちに、土を準備したいという願いを与えてくださいますが、究極的には、神との関係は相互関係です(フィリ[ピリ]2:12, 13 参照)。私たちは、神に顔を向け、神に手を伸ばし、神により頼む必要があります。そうすれば、神は私たちの中で働き、すべてを成し遂げてくださるのです。

神に信頼するとはどういうことかを示す、すばらしい例の一つが次の聖句に見られます。「あなたたちは、主がバアル・ペオルでなされたことをその目で見たではないか。あなたの神、主はペオルのバアルに従った者をすべてあなたの間から滅ぼされたが、あなたたちの神、主につき従ったあなたたちは皆、今日も生きている」〔口語訳「あなたがたの目は、主がバアル・ペオルで行われたことを見た。ペオルのバアルに従った人々は、あなたの神、主がことごとく、あなたのうちから滅ぼしつくされたのである。しかし、あなたがたの神、主につき従ったあなたがたは皆、きょう、生きながらえている」(申4:3, 4)。

話し合いのための質問

- ① 「わたしたちを誘惑に遭わせず、悪い者から救ってください」〔口語訳「わたしたちを試みに会わせないで、悪しき者からお救いください」(マタ 6:13)。イエスは弟子たちに、このように祈りなさい、と具体的に教えられましたが、私たちは日々の祈りの中で、この考え方を持ち続けているでしょうか。誘惑や罪から守られるために、あなたはどれくらい定期的に祈っていますか。
- ② キリストの義の衣という貴重な賜物を、クリスチャンでない人や新しく信仰を持った人に、あなたはどう説明しますか。
- ③ キリストの義の衣は、悔い改めた罪人を神が赦し、清めてくださるという聖所のメッセージと、どのようにつながっているのでしょうか。このメッセージのすばらしさと豊かさを、あなたはどれだけ理解していますか。

話し合いのためのヒント： 聖霊の促しに応じて自分の罪を認め、悔い改めによって自己を明け渡すことは、神との豊かな関係を築くうえで不可欠な要素です。私たちが完全に赦され、イエスの義の衣に覆われていると知るとは、人間にとって最も大きな変革をもたらす経験です。罪の重荷が取り除かれたと感じるだけでなく、神に近づくにつれて、神の愛が私たちを包み込むのを感じます。このことは、私たちを神に結びつけ、霊的に強め、全身全霊で神を愛さざるをえなくさせます。

73

ホセ 10:12 (新共同訳)
10:12 恵みの業をもたらす種を蒔け/愛の
実りを刈り入れよ。新しい土地を耕せ。
主を求める時が来た。ついに主が訪れて

ホセ 10:12 (口語訳)
10:12 あなたがたは自分のために正義を
まき、いつくしみの実を刈り取り、あな
たがたの新田を耕せ。今は主を求むべき

/恵みの雨を注いでくださるように。

フィリ 2:12、13 (新共同訳)

2:12 だから、わたしの愛する人たち、いつも従順であったように、わたしが共にいるときだけでなく、いない今はなおさら従順でいて、恐れおののきつつ自分の救いを達成するように努めなさい。

2:13 あなたがたの内に働いて、御心のままに望ませ、行わせておられるのは神であるからです。

申 4:3、4 (新共同訳)

4:3 あなたたちは、主がバアル・ペオルでなされたことをその目で見たではないか。あなたの神、主はペオルのバアルに従った者をすべてあなたの間から滅ぼされたが、

4:4 あなたたちの神、主につき従ったあなたたちは皆、今日も生きている。

マタ 6:13 (新共同訳)

6:13 わたしたちを誘惑に遭わせず、悪い者から救ってください。』

時である。主は来て救いを雨のように、あなたがたに降りそそがれる。

ピリ 2:12、13 (口語訳)

2:12 わたしの愛する者たちよ。そういうわけだから、あなたがたがいつも従順であったように、わたしが一緒にいる時だけでなく、いない今は、いっそう従順でいて、恐れおののいて自分の救いの達成に努めなさい。

2:13 あなたがたのうちに働きかけて、その願いを起させ、かつ実現に至らせるのは神であって、それは神のよしとされるところだからである。

申 4:3、4 (口語訳)

4:3 あなたがたの目は、主がバアル・ペオルで行われたことを見た。ペオルのバアルに従った人々は、あなたの神、主がことごとく、あなたのうちから滅ぼしつくされたのである。

4:4 しかし、あなたがたの神、主につき従ったあなたがたは皆、きょう、生きながらえている。

マタ 6:13 (口語訳)

6:13 わたしたちを試みに会わせないで、悪しき者からお救いください。